令和５年度　第５回アイデア発表会

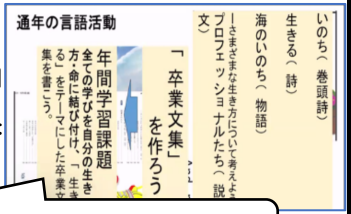
文責：森川（若葉小）、緒方（桜木小）

１１月１７日(金)のアイデア発表会では，熊本市立本庄小学校の田畑 浩二 先生「通年言語活動！６年『生きる』-イースター島にはなぜ森林がないのか-の実践にて」，芦北町立佐敷小学校の籔下 亜樹 先生による「やる気を引き出し，しっかり力をつける！～シンプルだけど大事な手立て～」の２実践をご発表いただきました。

本庄小学校　田畑 浩二 先生の実践

・授業づくりの視点

田畑先生は，子供の生活経験・体験といった背景に着目されています。子供の既有知識，そして喜怒哀楽といった感情に寄り添う姿に，はっとさせられました。



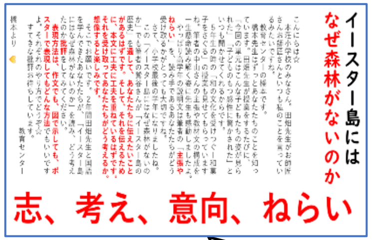
年度当初から見通しを持つ

・通年言語活動とは

年度当初，子供たちと共に教科書の目次を見ながら，「全ての学びを自分の生き方・命に結びつけ，“生きる”をテーマにした卒業文集を書こう。」と通年の言語活動を立てられます。各単元・領域に取り組む際も，田畑先生は，“生きる”に結びつける学習活動を展開されます。「この学びは何につながるか」と一本の筋が通り，学びの道しるべになっていきます。質疑でも話題となりましたが，各単元の学習課題を設定する際にも，このような軸があると，学習課題もより柔軟に設定できそうですね。

・「イースター島にはなぜ森林がないのか」の実践にて

目的・相手意識を高めるために，「筆者の主張を読み取るために構成の意図を考え，先生のお師匠さんに批評を伝えよう」という学習課題を設定されています。（お師匠とは，熊本市教育センターの橋本先生です！）既習教材（２年生「たんぽぽ」）との比較を通し，文章構成→筆者の主張→価値づけ…と子供たちの思考を促します。その上で，「通年の言語活動」とつなぎ，「構成に隠されたメッセージ，私たちの今後の生き方」と子供たちは考えていました。この一つの単元からも，卒業文集につながっていく様子が感じられました。



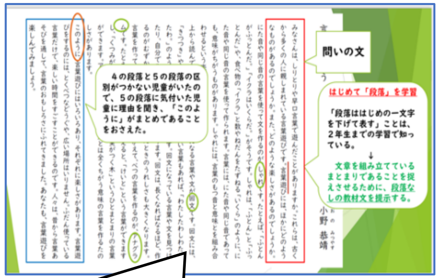
子供たちに，橋本先生からの「批評依頼文」が届きました。

佐敷小学校　籔下 亜樹 先生の実践

文意を捉えることや自分の考えをもち伝え合うことに課題のある子供たち。そんな子供たちの実態に応じた細やかな手立てをたくさんご提案いただきました。

・叙述をもとに文意を捉える力

先生は，叙述をもとに文意を捉える力を高めるために，多くの手立てを講じられていました。説明文「こまを楽しむ」では，子供たちが初めて「段落」を学習することになります。そこで先生は，まず段落なしの教材文を提示されました。段落に区別がついた「根拠」を問うことで，「このように」といった叙述に自然と着目することができるようになります。教材文の提示の仕方を工夫することで，一つ一つの言葉への感度を高めることが可能だと学びました。



段落のない教材分を提示

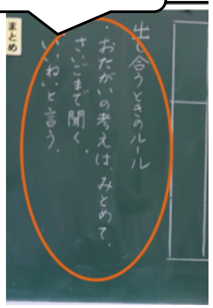
・デジタル教材の活用

デジタル教科書の色分けや線を引く機能を活用して、「問い－答え」の書かれ方といったヒントとなる言葉に着目できるようにされていました。また、ここで得た見方や考え方が、次の「すがたを変える大豆」の学習にもつながっていました。

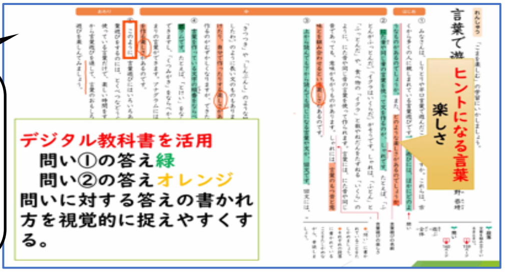
・自分の考えをもち，相手に伝える力

自分の考えを出すことが苦手な子供に応じて，班活動を数多く取り入れています。班活動で意見を出し合うときも，先生は，「出し合うときのルール」「じょうけんは・・」「字体・書き方以外でポスターの中身は違うところは？」といった効果的な提示をされています。目的意識が明確になり，意見も出しやすくなりますね。

話し合うルールの明示



視覚的に捉えやすい「問い－答え」



◎ご参加された先生方の感想を紹介します。

田畑先生の卒業文集につなげる取り組み，子供の実態に合わせ，子供と話し合いながら進められていることに自分の実践を省みました。

薮下先生の実践の，叙述をもとに問うていく姿勢を忘れずに授業していこうと改めて思いました。帰りの会での「3文発表」の取り組みを早速やってみようと思います。ご発表ありがとうございました。

通年言語活動は，大変興味深い実践でした。今回の６年生では「生きる」というテーマでしたが，他学年ではどんなテーマになるのだろうかと想像が膨らむとともに，私もぜひ挑戦してみたいと思いました。また，お二人の先生方の「子供に寄り添う」授業づくりの姿勢にとても感服いたしました。貴重な実践をご発表いただき，ありがとうございました！

今回先生方お二人のご実践を聞いて，とてもいい学びになりました。田畑先生からは，子供と対話を重ねることで学習計画からねらいまできちんと定めておくことの大切さや，１年間貫いた「テーマ」をもつことでさらなる子供主体の学びに発展させていくという新たな考え方をいただきました。他学年では，どう実践していくか来年に向けての展望をもつことができました。ありがとうございます。

薮下先生からは，子供に確かな力を身につけさせるために大切なことを学ばせていただきました。身につけさせたい力をさらに細分化し，どうしたら目の前の子供たちにその力を身につけさせることができるか考えることができました。お二人のご実践からは，今いる子供中心で，どう実態を見つめていくかという基本的なことだけど，忘れがちな部分を自分なりに見つめることができました。

改めて，田畑先生，薮下先生ご発表いただきありがとうございました。

略儀ながら，書面をもちまして発表のまとめとお礼のあいさつとさせていただきます。 県小国研　編集部